






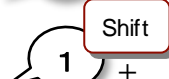

～外部参照編～

目次

外部参照ファイルを配置してみましょう

1. 図面上に参照ファイル呼び出しましょう
 - 図面を開く
 - レイヤー作成
 - 参照ファイル呼び出し
 - 入力レイヤの指定
 - 参照ファイルの配置
 - 参照ファイル移動
2. レイヤー分解して参照ファイルのレイヤー状態を確認しましょう
 - レイヤー分解設定
 - 図面のレイヤー分解

マウスの使い方

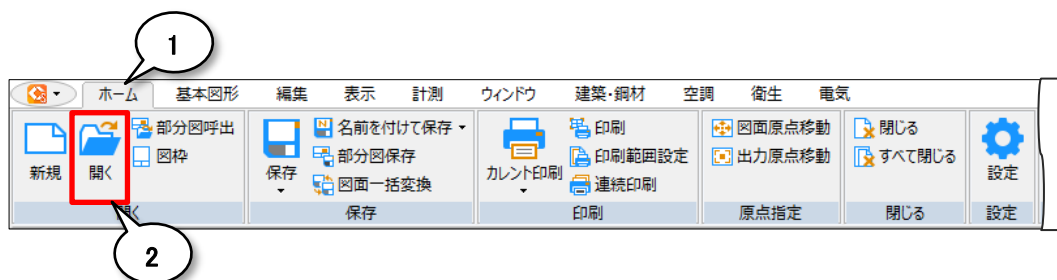
- | | |
|---|-------------------------------------|
|  | ・・・指示位置をクリック（左クリック）します。 |
|  | ・・・指示位置をマウス右ボタンでクリックします。 |
|  | ・・・指示位置をダブルクリック（左2回クリック）します。 |
|  | ・・・マウスを表示位置に近づけます。 |
|  | ・・・[Ctrl]キーを押しながらクリック（左クリック）します。 |
|  | ・・・[Shift]キーを押しながらクリック（左クリック）します。 |
|  | ・・・マウス右ボタンをクリックしたまま移動します。 |
| 右ドラッグマウス移動 | |

1. 図面上に参照ファイルと呼び出しましょう

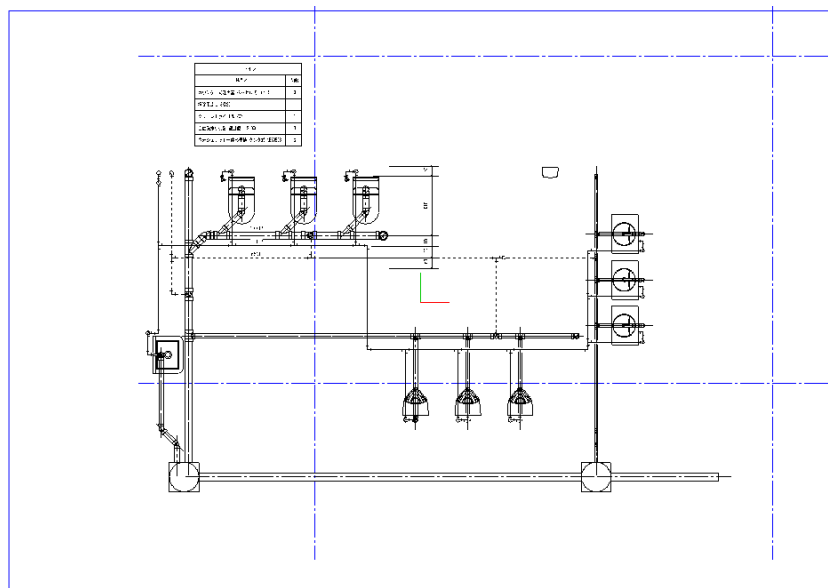
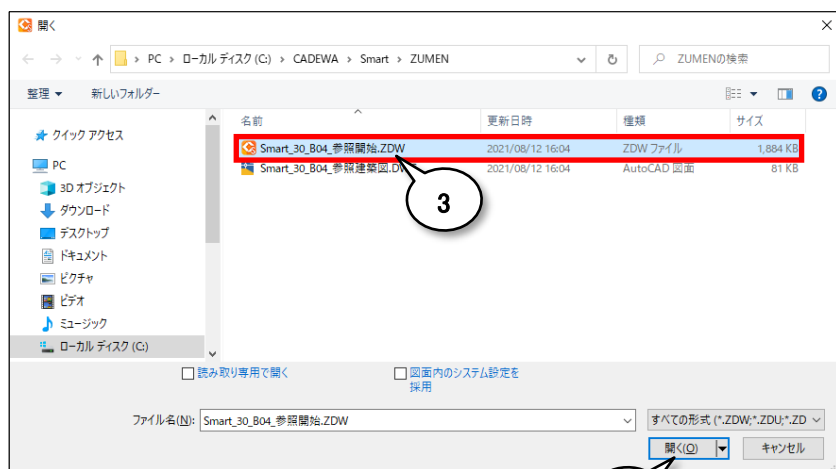
➤ 図面を開く

使用する図面は[Smart_30_B04_参照開始.ZDW]

リボンの「ホーム」から「開く」をクリックします。

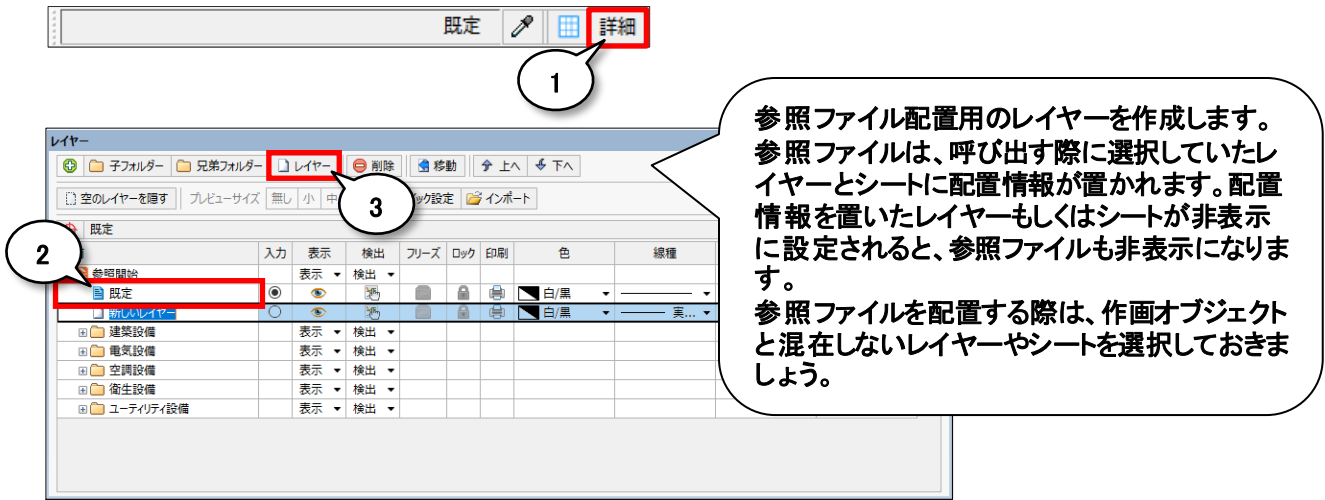


ファイルを選択し、「開く」をクリックします。



レイヤーの作成

レイヤーツールバーの「詳細」をクリックし、「レイヤー」をクリックします。



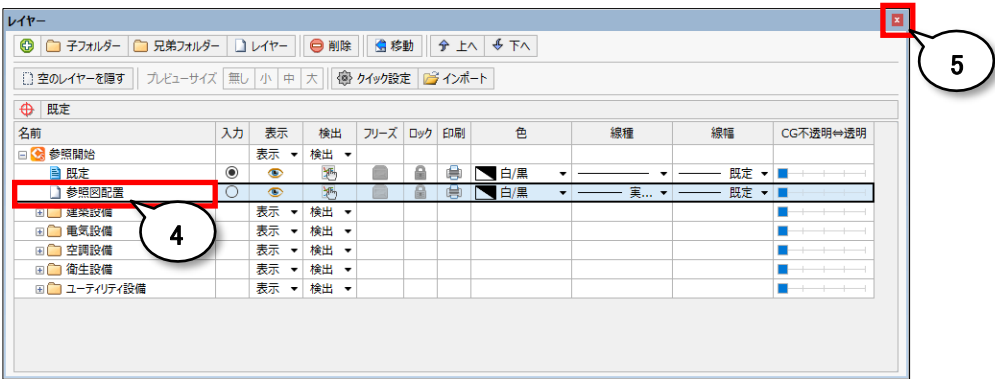
1

2

3

参照ファイル配置用のレイヤーを作成します。参照ファイルは、呼び出す際に選択していたレイヤーとシートに配置情報が置かれます。配置情報を置いたレイヤーもしくはシートが非表示に設定されると、参照ファイルも非表示になります。参照ファイルを配置する際は、作画オブジェクトと混在しないレイヤーやシートを選択しておきましょう。

レイヤーの名称「参照図配置」を入力し、パネルを閉じます。

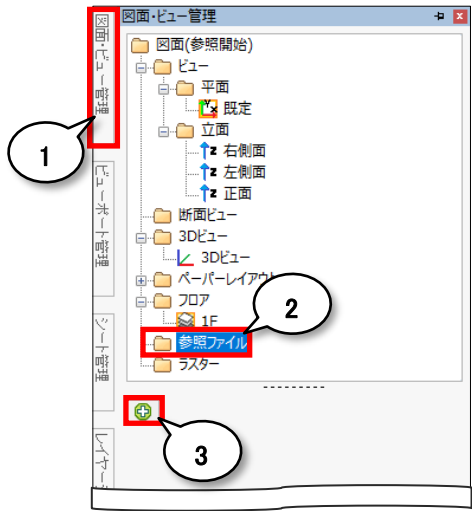


4

5

参照ファイル呼び出し 使用する図面は[Smart_30_B04_参照建築図.DWG]

パネルの「図面・ビュー管理」から「参照ファイル」―「追加」ボタンをクリックします。



1

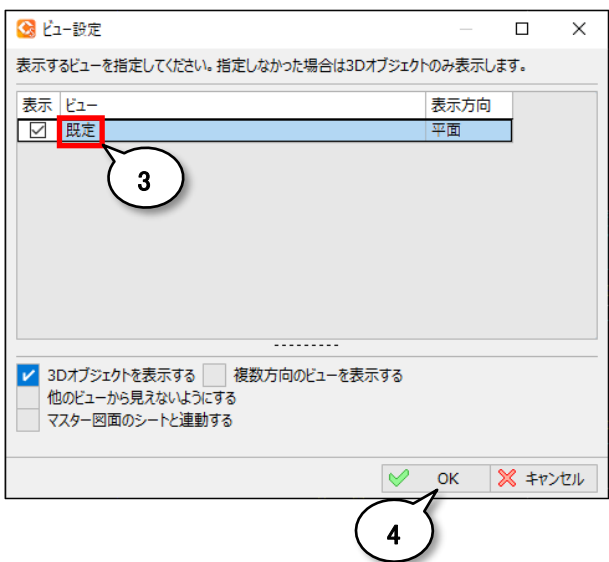
2

3

ファイルを選択し、「開く」をクリックします。



「ビュー設定」で既定ビューの「表示」をONにし、「OK」をクリックします。



➤ 参照ファイルの配置

入力レイヤーを指定します。

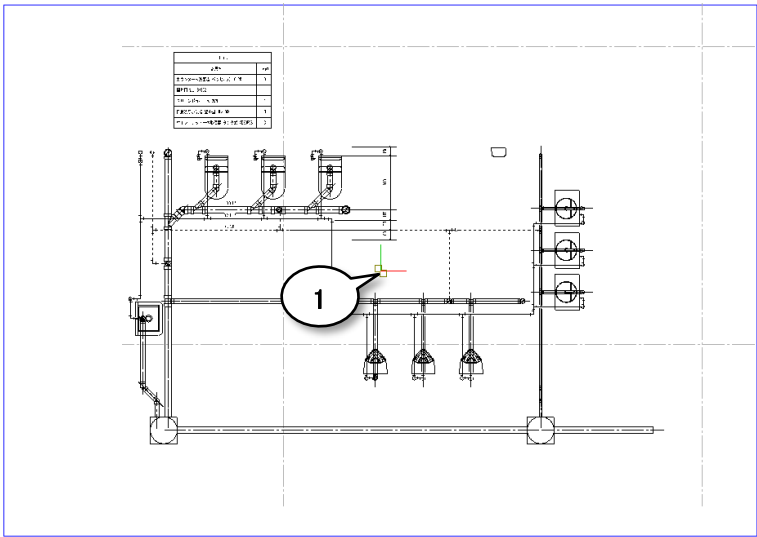


先ほど参照ファイルを配置する用に作成したレイヤーを選択します。

「スナップ」の「ベクトル」「XYZ」をOFFにします。

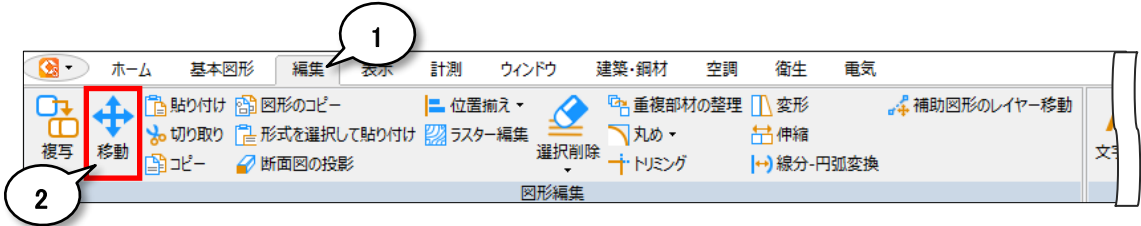


呼び出した参照図面の配置位置を指示します。

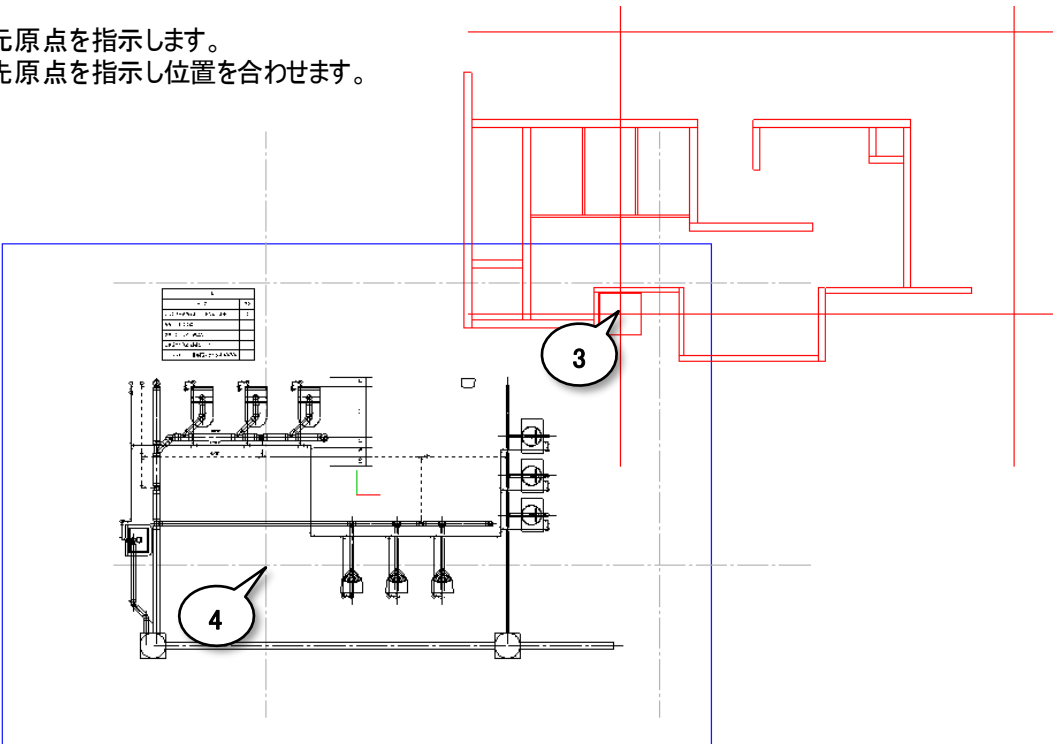


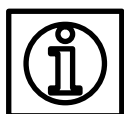
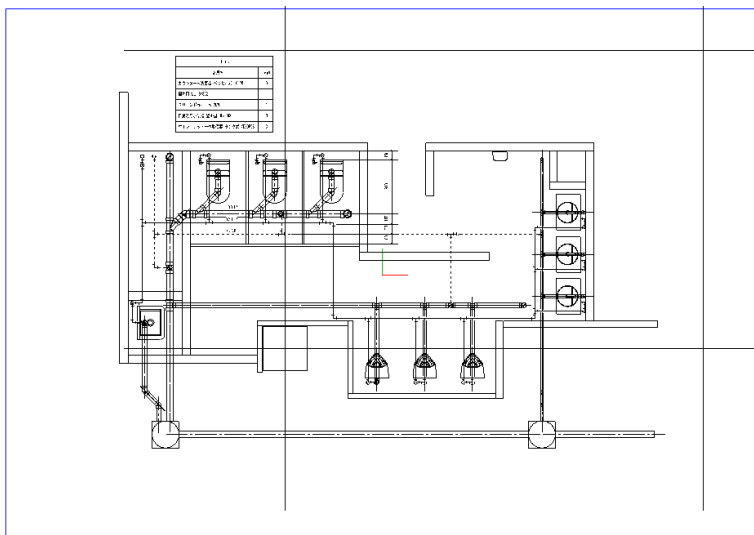
➤ 参照ファイル位置の移動

リボンの「編集」から「移動」をクリックします。



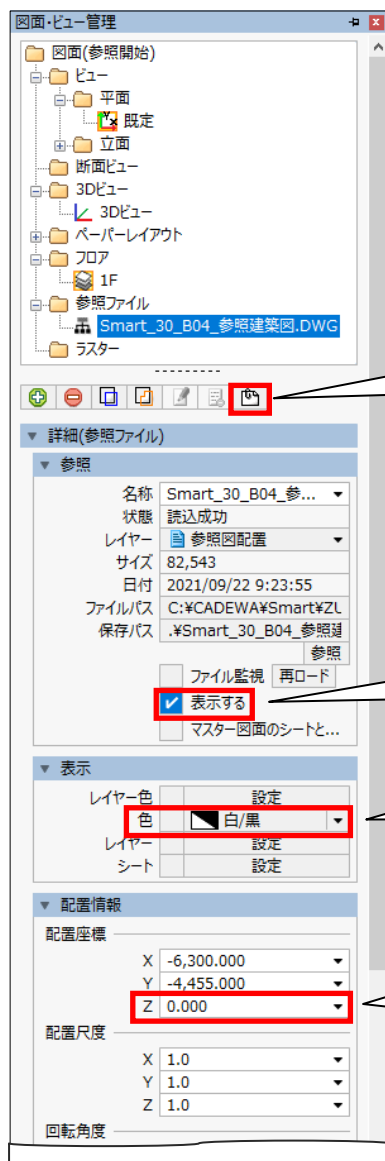
処理元原点を指示します。
処理先原点を指示し位置を合わせます。





「参照ファイル」情報の確認

「図面・ビュー管理」で参照しているファイルを選択すると、参照内容の確認と変更が行えます。



参照ファイルのオブジェクトを図面内に取り込むことができます。

参照ファイルの表示ON/OFFを指定できます。

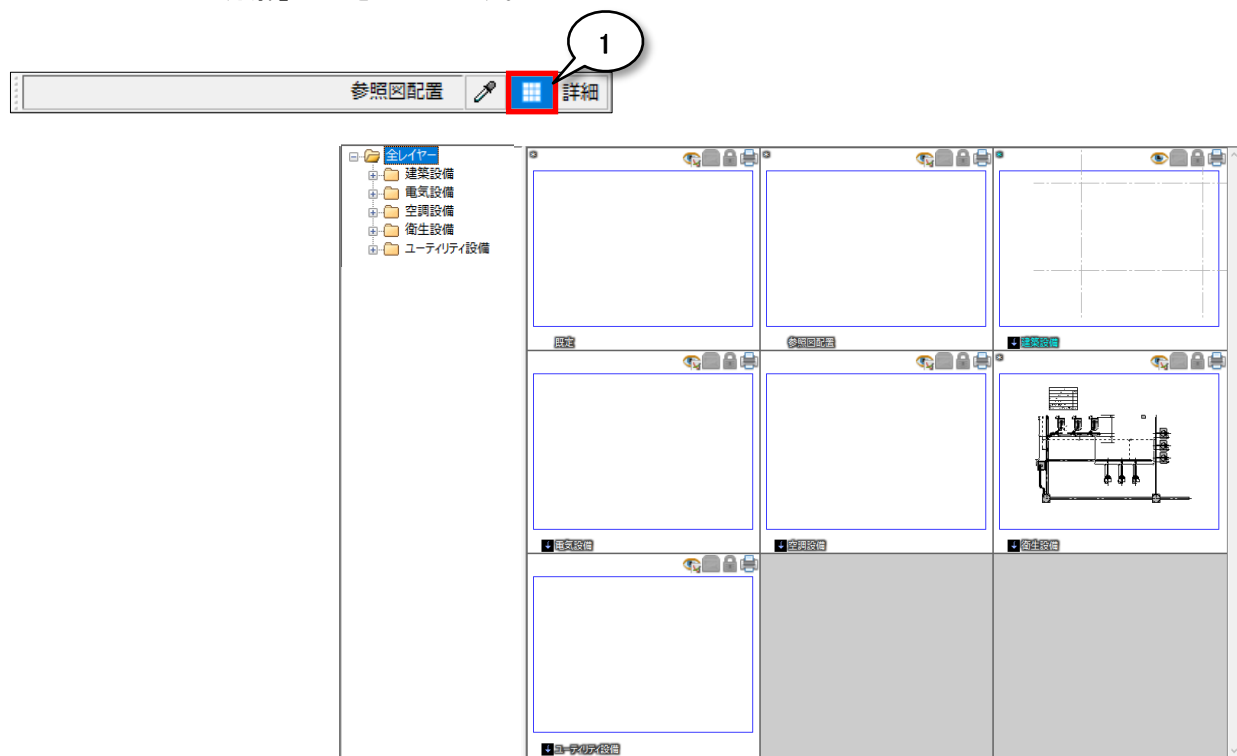
参照ファイルの表示色を指定できます。

参照ファイルを表示する高さを指定できます。(フロア図面を重ねる際は、その階のフロアレベルを入力します。)

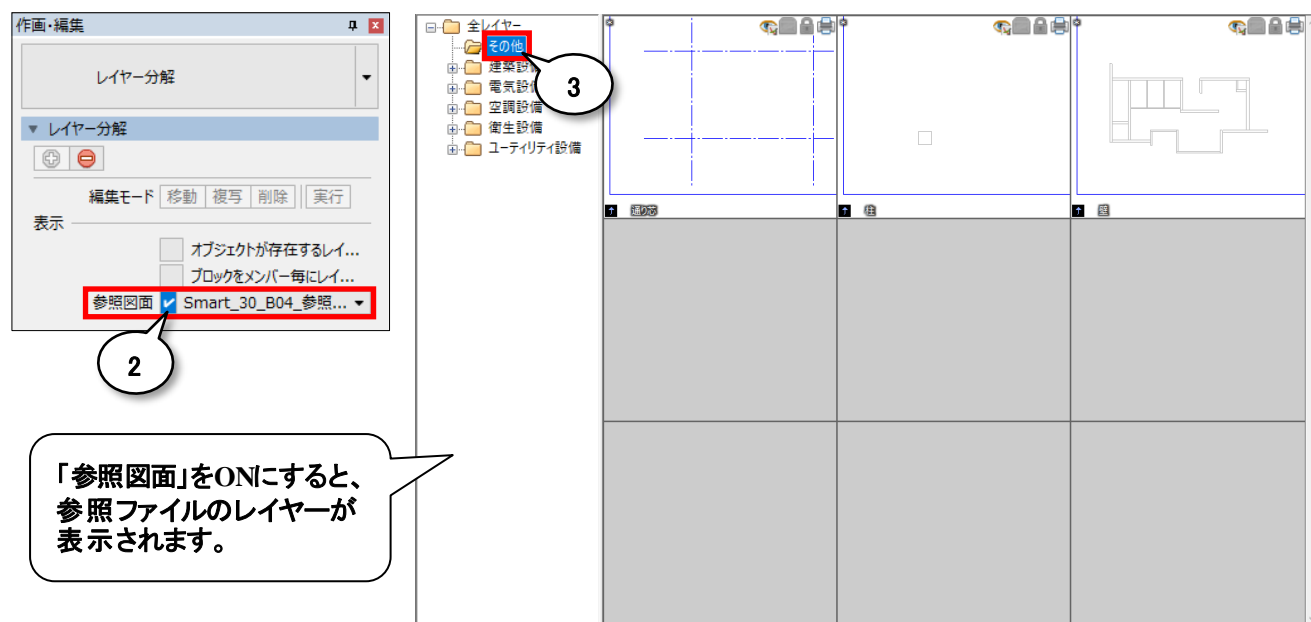
2. レイヤー分解して参照ファイルのレイヤー状態を確認しましょう

➤ 図面のレイヤー分解

レイヤーパネルの「レイヤー分解」ボタンをクリックします。



「参照図面」をONにし、「その他」フォルダをクリックします。



レイヤーパネルの「レイヤー分解」ボタンをクリックします。

